

児童朝会 校長の話 1月29日

今年は1月1日に能登半島で大きな地震が起きて、大きな被害が出ているという話を始業式にしましたね。もうすぐ1ヶ月が過ぎますが、なかなか復旧が進んでいません。がれきをどけて救助したり支援物資を運んだり、多くの人たちが懸命に救助や復旧



作業に当たっていますが、難しいようです。避難者の数は当時2万8000人でした。今は



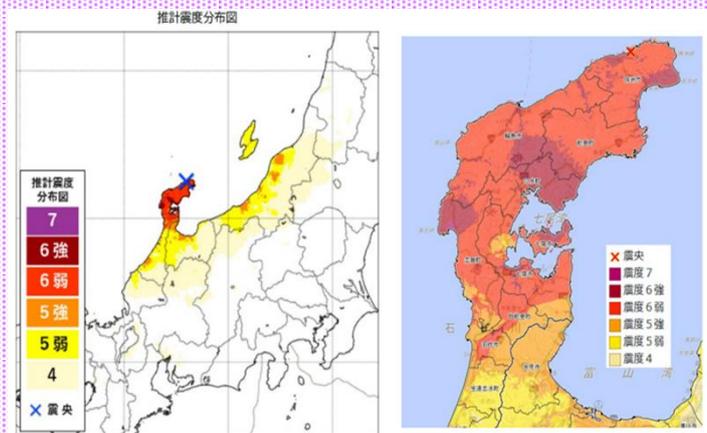
減りましたが、まだ1万4500人の人たちが避難生活をしています。体育館などに多くの方が避難し、不自由な生活を1ヶ月も続けています。ビニールハウスで生活している人たちもいます。

畑の作物を作っていたハウスです。車を留める車庫に30人くらいで生活している人たちもいるそうです。どうして復旧が進まないかと言うと地震の起きた地域に関係しています。



石川県の能登半島は、日本海に細く突き出た半島です。海

に囲まれていて、海岸線から半島の内部はすぐ崖になっています。土砂崩れが起きると、崖に迫っている集落は全部押しつぶされてしまいます。道路も海岸線を走っているのでも、埋もれてしまい、通れなくなってしまいます。



さらに大きな地震で道路も陥没して壊れてしまい、至る所で道が寸断されてしまいました。すると救助に向かう車やがれきをどける大型の車、支援物資を



運ぶ車などと通ることが

できません。また、海に囲まれている

ので津波も起きました。高いところで6m近い津波が発



生し、町や車を押し

流してしまいました。さらに、北陸地方は大雪が降る地方です。冬ですので先週も雪がたくさん降りました。雪の重みで倒れた家が更に押しつぶされたり、雪で道が通れなくなったり、寒さも厳しく避難している人たちにとってはとても辛い毎日です。



大きな揺れによって火災が発生して輪島市では町の中心部が燃えてしまいました。津波によっても車が押し流され火事が発生しました。

避難している人たちが1番困っているのは、水が出ないことだそうです。蛇口をひねっても水が出ません。車で運んできてもらうか手作業で水を運ばなくてはなりません。水が出ないと、手が洗えない、トイレが流せない、お風呂に入れない、ご飯が作れない等不便なことがたくさんです。今でも4万3000戸の家が断水していて、水が通るようになるのは4月



以降の見込みだそうです。大変なことですね。

能登半島で被災した方々が一にも早く日常生活を取り戻せるように祈りたいと思います。

そして私たちは当たり前のような幸せな毎日を、大切に過ごしていきたいですね。